

時に日々の生活で、ずいぶん苦
勞されているんだろうなと思っ
たしいです。
私が社長になってからは、あ
まり叱られることもなくいつも
笑顔で接していただきました。

科学技術の伝道者・志村幸雄さん 誠実な努力の人に追悼とありがとうを

大橋祥宏
(おほし・よしひろ)

志村幸雄さん。あなたは、本
年、令和2年2月5日にご逝去
なされたとうかがいました。悲
しいです。残念でもったいない
です。昭和10(1935)年10月
生まれの84歳でした。実り豊か
なご生涯は迫力に満ちて、工業
技術の成果を鋭く分析し、評価
した情報を日本の科学事情報告
として、広く新聞や雑誌・書籍、
講演・講座などの多彩なメディア
などで身近に貴重な贈り物に
してとどけてくださいました。

相談にいくと「好きなように思
いっきりやれよ」とよく励まし
ていただきました。
2年ぐらい前から週に3日と
いう出勤になり部屋からトイレ
まで歩くのも辛いご様子でし

いつもお元気でしたのに、ご
病氣は臍臓がんで3年5か月の
闘病を体験されたことを奥さま
にお伺いしました。常に誠実で
がんばり屋さんでしたが、最後
まで病氣に苦しみながらも依頼
された原稿の執筆を貫いていた
そうで、故郷北海道網走市の新
聞連載も続けたそうです。40冊
を超えている著作はすべてが名
だたる出版社の発行で、しかも
中国、韓国、台湾でも出版され
たのです。

志村さんにお会いした初めの
頃は出版社・工業調査会で半導
体技術専門誌の編集責任者で役
員でしたが、すでに業界の行事
などにご参加され、社長になら
れてからはさらに私どもの出版
クラブの委員や理事として催し
物などの事業面を見て下さいま
した。自然科学書協会の理事長
の大役も務められ、工業関係で
は多面的にお役に就かれていま
した。さらには日本政府の産業
技術審議会専門委員も務められ
たのは輝かしい実績でした。

た。相談に伺った時なども「し
んどいんだよ」とたびたびつづ
やかれていました。
今年コロナ禍となり顧問は在
宅勤務となりました。いろんな
ことの報告のために1週間に何

いぶん執筆をして頂きました。
思い出のある原稿の一つです
が、「金箔職人に見る『技』と
『知恵』の集積」(平成9年12
月1日号)は、岩波書店の社長
を務められた安江良介氏の父上
が金沢の有名な金箔師であった
ことを私が話すと、安江さんは
病中でしたが、弟である法政大
学教授・孝司氏から写真を借り
て掲載されたのです。このよう

志村さんのお出身校早稲田
大学を皮切りに麗澤大学、名古
屋大学、金沢大学などで講師を
務められました。本タイト
ルから類推しますと、「IC産業
最前線」「日米技術戦争」「世界ハ
イテク地図」「日本の技術が世界
を制覇」「半導体産業」「世界を変
えた日本の技術発想」「世界を変
えた素人発明家」など一部です
が、こうした内容豊かな講義を
聴いている学生は幸せて、心を
奮立たせられたことでしょう。
『出版クラブだより』にもず



志村幸雄(しむら・ゆきお)氏

度か電話連絡していました。い
つも会社にいる時よりもさらに
元気な声で対応していただきま
した。亡くなる2日前も電話口
で「おう、元気だよ」と大きな
声を出されていました。もう一

致してしまいました。実際に進めた
のは世界連邦建設同盟で、会長
は東久迩稔彦、副会長・賀川豊
彦、理事長・下中でスタート。
昭和27年11月には世界連邦アジ
ア会議を開催し、外国から22カ
国51名、日本側の代表は263
名、オプザーバー400名の会
議で、広島宣言をまとめ、原子
爆弾の製造・使用を禁止、軍備
全廃を目指しました。

志村さんの書き上げたものに
は、常に細心の注意が払われて
いました。
たまたま私は志村さんと同年
齢でしたので、同じ時代を話し
合うときにはとてもわかりあえ
たのです。出版クラブの初代会
長・下中彌三郎については、「戦
後の日本は世界平和を地球規模
で求めなくては」というスケー
ルの大きな人物であることで一

度お話しがしたかったです。ほ
んとに残念です。
今まで親身にお付き合ひして
いただき、感謝しています。あ
りがとうございました。
(秋田書店代表取締役社長)

たのですが、その夜に脳溢血で
亡くなったのです。83歳でした。
志村さんは学生時代に下中彌
三郎氏を尊敬し、お家にも伺い
原稿にも触れ、世界連邦運動の
国内機関のお手伝いもしていた
のです。この時の様子は志村さ
んに会報401号(平成10年6
月号)にご執筆頂き、お互い驚
き合い、懐かしがったことでし
た。私は下中会長が亡くなった
3年後、二代目の赤尾好夫会長
(元旺文社社長)に呼ばれてこ
の会報のために出版クラブに入
局したのですが、出版クラブ副
会長・下中邦彦氏(元平凡社社
長)をお手伝いして、箱根のパ
ール下中記念館の応援もしたの
です。出版クラブが箱根との縁
ができ、出版平和堂が誕生した
のはこの時期でした。志村幸雄
さんは平和堂には熱心に参加し
てくださいました。この出版平
和堂には、来年、志村さんも日
本の出版界を支えて来られた先
輩恩人として顕彰されることと
思います。

志村さん、ご冥福をお祈りし
つつ、さようならを申し上げます。
有難うございました。
(下中記念財団評議員・元日本出版
クラブ専務理事)